

日没前後の交通事故死 9月以降に大幅増加

平成28年度 秋の全国交通安全運動

平成28年9月21日(水)～9月30日(金)

- 夕暮れ時と夜間の歩行中、自転車乗車中の交通事故防止
- 子どもと高齢者の交通事故防止
- 飲酒運転の根絶

駐車場から左折で国道に出た、右から来た車と衝突

車3台絡む事故、男性死亡

◇駐車場から出る場合は、左右の安全確認と、余裕を持って出ましょう◇

2016年9月23日 00:00

22日午後6時25分ごろ、千葉県の国道で、無職女性(65)の軽乗用車が駐車場から左折で国道に出たところ、右から来た男性(76)の軽ワゴンと衝突。軽ワゴンは弾みで対向車線に進入し、会社員女性(31)の乗用車と衝突した。軽ワゴン車の男性は頭などを打って間もなく死亡が確認された。

交差点進入時は…

- 交差点には、必ず「人」や「自転車」や「車」がいる
- 相手は、「避けない」、「止まらない」…かもしれない

交差点 信号が、「青」に変わった！ チョット待て！ もう一度、安全確認しよう

バックは、『カメが歩くスピードの気持ちで！』

午後8時 札幌白石区 国道12号 車に300m引きずられ死亡

◇夜間…ヘッドライトは遠目が基本、早期発見！ 事故防止◇

2016年9月23日(金)10時34分

22日午後8時すぎ、札幌市白石区の国道12号で、札幌の中心部から郊外の方向に向かっていった乗用車に歩行者の男性がはねられ、そのまま約300メートルにわたって引きずられました。この事故で、50代から60代とみられるこの男性が全身を強く打って死亡しました。現行犯で逮捕されたアルバイト従業員の男性容疑者(32)は「何かをはねたが、人かどうか分からなかった」と話しているということです。現場は片側2車線の直線で、男性は信号機のある横断歩道の近くではねられたものとみられています。

夜間の時間帯の事故多発

「ヘッドライトの使い分け」できていますか？

「ハイビームだったら歩行者をもっと早く発見できた可能性がある」

2016年9月22日(木)21時43分

秋の行楽シーズンを前に気を付けたい交通事故ですが、中でも死亡事故が起こりやすいといわれているのが「夜間の時間帯」。夜の暗い道で事故を避けられるかどうか、その明暗を分けるのは、ヘッドライトをハイビームにするかロービームにするかです。ハイビームは100m先まで照らすことができますが、ロービームは40m先まで。大阪府警によると、去年1年間に起こった車(バイク・原付含む)と歩行者の事故のうち、ロービームが92%を占める一方で、ハイビームはわずか0.5%にとどまりました。大阪府警は「ハイビームだったら歩行者をもっと早く発見できた可能性がある」と分析しています。JAFは、ハイビームとロービームで車を走らせ、ドライバーがどの時点で障害物に気づくか実験を行いました。まずはハイビームだった場合、障害物に早く気づくことができ、101m手前で停車。しかしロービームだと…。気づくのが遅れ1m手前でかろうじて停車しました。さらにロービームの状態ですべて速度を上げて走ると…。障害物に衝突した上、4mを過ぎてやっと停車しました。JAFでは「夜間の走行時は対向車や歩行者がいない場合、ハイビームを積極的に使ってほしい」と呼びかけています。

高齢者の交通事故事故、日没時に集中

車の自動点灯(オートライト)で防止狙う

◇日没時間帯直後に、死亡者急増◇

※恥ずかしいなどの理由で早めの点灯をためらう人もいる※

2016年9月22日19時25分

国土交通省が、暗くなると車のヘッドライトが自動点灯する「オートライト」の搭載を義務づける背景には、多発する高齢者の交通死亡事故がある。2014年に65歳以上の歩行者が亡くなった事故の発生時間帯を調べ、日没時間を照らし合わせたところ、一年を通して事故は日没の時間帯に集中していた。

◆車のライト、夜間の自動点灯を義務化へ 20年4月から

国土交通省の担当者は「日没の時間帯、とくに直後に死者が集中する。恥ずかしいなどの理由で早めの点灯をためらう人もいるが、死者を出さないことの方が大切」と指摘する。

夜間、横断、死亡の96%が…ライト「下向き」

ハイビームを使用していれば防げた事故もある

2016年9月21日(水)7時55分

歩行者が夜間に道路を横断中、車にはねられた昨年1年間の全国の死亡事故625件のうち、96%の車のライトがロービームだったことが警察庁の調査でわかった。同庁はハイビームを使っていれば防げた事故もあるとみており、21日から始まる秋の全国交通安全運動の重点項目としてハイビーム使用を呼びかける。